‖分科会①‖ 自然とまちづくり

座　長　中村 浩二（金沢大学学長補佐 環日本海域環境研究センター長 里山プロジェクト代表）
副座長　谷田 直樹（能美市役所 里山振興室）

●話題提供の補足

谷田　まず，午前中に話題提供をいただいた方で，これだけは伝えておきたいということがありましたらお願いします。

川畠　能美市が今作っておられるバイオマスタウン構想はかなりのレベルのものだと評価できる内容だと思います。担当の環境生活課に出向いて素案を読ませていただいたところ，山本先生がかなり知恵を出されていると思いました。私は県内のあちこちの基本計画作成にかかわっていますが，おのおの独自のことを構想されています。その中で能美市は全般的にうまくまとめながら，しかも大学の力をうまく利用して環境という問題に臨もうという志がかなり高く，内容もそれなりのレベルで具体策もあるという感じです。あとしばらくでパブリックコメントが多分，ホームページか何かで出るはずですから，皆さんもその内容についてそれぞれの立場でご意見を出してほしいと思います。

先ほどの私の報告に二つだけ付け加えます。一つは炭化の話です。木質バイオをどういうふうに活用するか，能美には里山ファン倶楽部という活動的な組織もあり，新しいチャレンジもあります。それとリンクさせて，木質バイオの利用，特に一般市民の方々にそれを利用する啓発活動なり，実証事業なりをされていくと，能美市では案外あちこちそういう動きが出てくるのではないかと思います。その先鞭を，ぜひファン倶楽部の方々が切っていただきたいと思います。

私は農業の関係でのプロジェクト提案ということで，資源作物のベルト地帯形成というプロジェクトをスタートさせてはどうか，休耕田を利用して，多種稲を含め，丸いも・ハトムギ以外の資源作物の栽培を試みる仕事を能美市からスタートすると面白いと思います。それを能美市の旧市町村で1カ所か2カ所ずつやると，皆さんの関心も高まって，その資源作物をどうバイオマスとして利用するかという切り口で何か試みようという動きが生まれるのではないでしょうか。これは，全国のバイオマスタウンの構想の中ではそんなにないと思います。

中村　では，会場の皆さんからの話題提供をお願いします。

●辰口キャンパスの管理状態

参加者1　私は今，A地区の公民館長をやっております。こちらに昭和51年の暮れにやって来ました。大学のキャンパスができたのと同じぐらい経過しています。私の出身は九州の福岡で，17～18年ぐらい居ました。それから，会社の関係で静岡の三島，そして現在のここです。住んだ所でそれぞれいいところ悪いところがありますが，能美市は里山あり，手取川あり，日本海ありということで，まさに自然に恵まれた環境だと思います。しかし，その割にありがたみをあまり感じていないことも事実です。そういう再認識も含めて，いろいろ考えてやっていかなければいけないと思っている一人です。

私がこちらの方に来たときは緑が丘に居ましたが，あそこは山だったのです。その山の中に大学のキャンパスが造られました。あの辺は非常に自然に恵まれたいい所だなと思いましたが，そうこうしているう

ちに私が住む松が岡は山が切り崩されて，今，キャンパスの所だけがぽつんと残っている状況になっています。今日も通ってきたのですが，竹が道の方に目いっぱい雪で倒れていました。毎年，あんな状態が続いています。普段そこを通る者からすると，何か管理状態が悪いのではないかという思いもあります。何とか連携を取って，もう少しましな状態にして活用するようにされたらいいかと思います。

もう一つ，今，松が岡の小学生が200名弱いるのですが，大通りの交差点を通って辰口中央小学校に通っています。もう少し環境が整備されれば，あのキャンパスの所から道の上を通って緑が丘を通って，比較的安全に学校へ行けるという意見も以前から出ています。

2点目ですが，私が三島に居たときに，三島も歌で紹介されるように，かつては非常に水のきれいな所でした。市が専用のマイクロバスを用意してあり，グループで頼めばいろいろな名所や歴史的な場所に行ってくれ，そこで説明も受けたりできました。できればこの能美市も，市になったわけですから，やはり里山のことを知ってもらう。蟹淵なんてどんな所かは行ってみなければ分からないですよね。グループ単位で何かそういうものを作っていただいて，そういう所に行ってもらって，そのよさを再認識してもらうということもされたらいいのではないか。併せて，車でどんどん来られたら環境問題もありますので，できればそういう足も用意されると，一石二鳥のようなところもあるかと思います。

●企業の森づくり

参加者2　企業の森づくりについてご提案します。何年か前から辰口の岩本地区でキリンビールが森づくり活動をされていましたが，キリンビールは石川県から撤退ということになりました。あの森づくりをそのまま頓挫させていくのも非常に残念な話ですので，それが能美市で何とかならないかということを提案したいと思います。

もう一つは，この地域の活性化の一つのキーワード，連携ということです。先ほど宮本さんが「のみよし」の開発ということで，商工会や農協と連携されて商品化につなげたという話をされましたが，私が考えるに，例えば地域の森林組合と商工会と農協あたりが里山の活性化に果たしてうまく連携しているかということです。今までなら農協と商工会あたりは利害が対立して，ややもすれば反目していたような状態だったと思います。宮本さんは自分の企業ということで一生懸命リーダーシップを取って農協や商工会などを引っ張って，ああいう商品が具体化したと思います。特に辰口地区の山間部の活性化ということになると，どうしても森林組合の力をお借りしなければならないでしょうし，いろいろな商品を開発するということになると商工会のお力も借りなければならないでしょう。当然，耕作放棄地の利用でも，農産物がいろいろできたときに農協の力を借りるとか，そういう人たちの連携もこれから非常に必要ではないかと思います。

それから，連携ということになりますと，中山間地の集落と中山間地でない里の方の集落の住民との連携も，やはり非常に大事になっていくと思います。特に今，われわれ能美の里山ファン倶楽部の活動はだんだん活発になってきていますが，実は，中山間地にある集落の人たちはそんなに参加はしていないのです。新しいことをするときの3要素「若者，ばか者，よそ者」が大半を占めています。里山の山間地の集落の住民をいかにその活動の中に入れていくかも，これから非常に大事だと思います。それと，里の人たちにも参加してもらう仕掛けがもっと必要ではないかと思うのです。

●シジミの復活

参加者3　私は能美でもずっと海の方に近い福島に居ますが，そこの川に昔いたシジミが今はいなくなったのです。そのシジミを復活させたいというのが私の長年の夢で，今年もまちづくり何とか講習会でかなり議論もしてきました。いろいろな問題がありますが，来年1年間は調査期間にしようかと思っています。

そこで，大学の先生方にシジミの専門家を紹介してほしい。シジミは9割8分か9割9分までが汽水域に生息していますが，手取川のシジミは汽水域ではなく，淡水域に住みついていたのです。ですから，シジミの専門家が宍道湖にいらっしゃるものですから，そこに行って聞いてきましたが，全然畑違いでした。だからぜひ，専門家の方に一声掛けていただけたらと思います。

それから，環境という面から言いますと，私のところは下流なものですから途中で下水道を完備していない所があります。そういう所を市にお願いして，協力して水の浄化に努めたいと考えています。

もう一つ，里山と里海の活動があっても，里里はないような気がします。手取川は本当に平野の中を流れている川ですから，真ん中の里がないように思って，ぜひそういう所の復活を環境の一環として進めていきたいという夢もあるわけです。

実はシジミも石川県立大学の付近にはいるのです。ところが，台湾シジミや朝鮮シジミとか，どうもややこしいことがあるのです。今までもいたわけですから，全く奇想天外な話ではなく，必ず復活できると思っております。ですから，そういう研究者を紹介してほしい，もしくは養成してほしいということと，協力したいという方がいたら申し出ていただければと思っております。

●手取川の管理

参加者4　私は金沢大学で里山研究員をしております。生まれは根上町ですが，おふくろのお里が上清水という辰口にありまして，子供のころ，よく里帰りをしました。夏には，手取川のたまりと言って水がたまっている所で泳いでいたものです。毎年違う形の所で，水は冷たくて，川底にはアユが泳いでいる，そういう所で毎年泳ぐのがすごく楽しみでした。まだたまりがあると，川の研究員をしている内モンゴルから来ている留学生の方に聞きました。そういったものが少しでも復活できればいいな，例えば，ふるさとの海で遠泳をするとかいう学校行事もよくありますが，そういった形で何かきちんと管理していけないかなという希望があります。

参加者5　白山市から来ました。私は，去年の3月に金沢大学の事務職を退職して，能美市の方で現在，任意団体の新田開発の団体で事務局を担当しております。なぜ能美市で活動することになったかといいますと，平成4年に北陸先端大学ができたときに，学生課の職員として3年間勤めました。そのときに「空気と水のきれいな辰口町」というフレーズで学生を募集しましたが，空気と水だけでは人は生活できないわけです。

そういうときに，いつも学生の気持ちを癒していただいたのは地元の人たちでした。草創期でカリキュラムが緊縮型になり，アルバイトもできず勉強ばかりに追い込まれている学生寮の学生の気持ちを安らげるのに，休耕田を借りて田んぼをおじいちゃんおばあちゃんと一緒に耕作させてもらったことがありました。学生もたまにレスト三湖などに売りにいったりしていましたが，そのことは学生にとっても非常に新鮮な思い出になったと思います。また，そのときは体育館もなかったので，自分たちの体を鍛錬するのに公民館に行ったらどうかということで，宮竹などいろいろな所にお世話になりました。

そのときに，お礼代わりに学生が柔道などを子供たちに教えたり，留学生がおじいちゃんおばあちゃんに母国のお話をしたり，岩内の中部フレンドリーセンターで「世界の街角サロン」を開いていただきました。また，大口で山菜採りも企画して，それが今も続いています。

現在，退職して何をするかというとき，うつ病の人たちに農業をとおして元気の支援をするようなことをしようと思い，同じ思いの人とグループを作り，現在，30名でやっています。今は，金沢大学の大学

病院の精神科の患者さんの中で比較的アクティブな人たちを中心に，能美の社会福祉協議会の紹介で畑を耕作しています。やはり，能美のこういう豊かな自然の中で鍬を握っていると，皆さんがすごく元気になります。学生の中には，患者さんとうまく接触を持てなくて実習を中断したという学生もいましたが，農業をやっていると元気が出て楽しいと言っている者もいます。結局，そういうことを受け入れてくれるのは，能美の地域のコミュニティーの懐の深さではないかと思っています。冒頭，山本先生が地域の環境力とおっしゃいましたが，これはある部分ではソーシャルキャピタルというか，地域の信頼力に基づいた深さだと思います。そういうことをこれからのまちづくりの中で，うまく大学との連携の中で読み解いていただければ，より具体的にものが出るのではないかという思いがしております。

私は中村先生とも現役のときにお仕事をしましたが，今，農業でこれをやるときに，やはり経費が非常にかかるのです。自前で肥料も作っていかなければならないので，どこかでお願いしたいのは竹のチップづくりです。竹はすごいパワーがありますが，それを粉砕する機械が何百万もします。こういうものを作っていただいて，ぜひ私たちにも分けていただきたいというのが，ずうずうしいお願いです。

それから，ドングリでバイオエネルギーはできるはずです。そういう里の中にあるエネルギーをうまく具体的に置換していける知識は先生の方がたくさんあるわけですから，より具体的にしていただければいいなと思っているところです。

もう一つは，能美市の社会福祉協議会のお世話で，おととし団塊の世代を地域に取り込むための公開講座のお世話をしました。能美市には6000人近い団塊の世代がおいでます。大学とのコラボレーションの中で，より魅力のある具体的なアクションプログラムが提案されれば，男性でも女性でも行ってみようかとなるのではないか，そういう具体的なプランの提案をお互いに発信し合うというのがこれからの地域づくりに非常に大事ではないかと思っているところです。

●行政のかかわりの必要性

参加者6　私は，能美里山ファン倶楽部から来ました。定年退職してから簡単なボランティアをしたいなと思って活動を始めたのですが，中へ入れば入るほど里山の荒廃，人のマナーの悪さが目に付いて，今は石川県内の各地をボランティアで歩いています。そういう中で人とのかかわり合いを手に入れることができましたが，中には，ただ労働力だけを提供してくれればいいという感じのところもあります。それから，本当に里山を憂える方たちもおられます。

今ここにもおられます安田宏三先生のご指導で炭焼きも体験して，今年から小学生を相手に炭焼き体験を指導しております。ただ，先ほどJAISTが和気小学校だけを訪問しておられましたが，私たちも今のところ和気小学校だけです。その中で感じるのは，ファン倶楽部の中に市会議員の方たちが入っていないことです。やはり私たちの力を出せる問題と行政が力を発揮する分野があると思います。行政の方たちと政治的なものとの絡み合いが不足しているように思われるというのが私の印象です。

例えば僕らは七ツ滝の方で活動していますが，あそこは普通の日もたくさんの方がお見えになります。前からあそこに便所がないのかとよく言われますが，やはりそういうものは個人的な力ではどうにもならない，やはり行政の力が必要だと痛感したわけです。

●子供の教育環境

参加者1　今，能美市で行政と市民の協働の福祉づくりとかまちづくりがしっかりと行われている中にあって，人材育成といいますか，要するに担い手づくりが非常に大きな課題になっていると思います。先般，私も人材教育を受けましたが，里山との関係で提案したいのは，子供の人材育成，教育環境はどうかということです。私も小松の方に2年生と4年生の孫がいるので，先般，授業参観にも行ったのですが，われわれが通っていたころの学校教室と比べて今はすごいです。2人の先生が必要な感じです。じっとしていない。先生，よくこれで教育をやっておられるなと，都会の方の話だとばかり思っていたのに，われわれの身近な所でもこんな状況になっているのかと，どこの教室もそうであるとは思いませんが，ただ，全般的にそういう風潮になっていて，この子たちがこれからどういう大人になっていくのかと考えざるを得ないのです。

小松の山の方には，寺子屋塾か何かがあるのでしょうか。そこに子供を1泊くらい泊めて，自然とのふれあいなどをやって，夜はお話をしていました。鶴来や向こうの山奥へ行くのではなくて，能美市の中には辰口地区にこういう里山という身近に自然とのふれあいの場所がありますから，いろいろな所にそういうセンターを造るのもいいですが，子供にとっての宿泊場所，研修場所といいますか，名前も寺子屋塾のような感じのものを造ることを提案しておきたいと思います。

●資源作物の耕作

谷田　最初に川畠さんのご提案が二つあったと思います。炭化の取り組みですね。それから，資源作物というお話もありました。資源作物というのは具体的にどのような。

川畠　例えば麦もそうですし，いろいろな形で燃料化できるようなものを言うらしいです。外国の例で言えばトウモロコシ。だから，作れるもの，作りやすいもの，しかも収量の高いもの，そんなもので能美でやれそうなものを選んでいくということだと思います。

谷田　なるほど。山手の休耕田となると，かなり条件が悪いということもある。

川畠　バイオマスタウン構想の中で，遊休地を利用した菜の花プロジェクトが提案されています。能美市全体の遊休地は，3haと書いてありますが，多分もっと遊休農地があって，それを利用することも考えられるかなと思います。

ついでに一言，竹チップの話です。竹を水田に入れてやればもっと増産できるのではないかという話を先ほどの方がおっしゃいましたが，それは増収する場合もあるし，無肥料でやる場合もありますが，そう簡単に収量が取れるような農法ではない。ある程度時間をかけてやり方も工夫しないといけないと思います。

●子供たちへの環境教育・人材育成の必要性

参加者2　子供たちの環境教育，人づくりうんぬんという話ですが，能美の里山ファン倶楽部の市民グループは，私から引き継いで，和気小学校の体験炭焼きを今年から始めました。ただ，子供たちに環境の話や教育をしていないかというと，そうでもありません。私はもう4～5年前から，辰口地区の中央小学校の5年・6年に2時間ほど，総合学習のときに炭焼きと環境の話をしています。寺井の湯野小学校の方へも年2回伺って，里山保全と林業の話をしています。

谷田　参加者1さんの最初のご意見の中に，自分たちの地域のありがたみをあまり感じていないとか，客観視できていないというご意見があって，名所などをご案内するガイドの育成ということもありましたが，ファン倶楽部の方でそういった人材育成にも取り組んでいらっしゃいますので，少し詳しくお話しいただ

こうかと思います。

小川　人材育成については，里山自然塾をとおし，里地・里山・里海の案内人育成を目指しております。われわれが期待しているのは，里地・里山・里海の案内をするに当たり，対価を得られる企画づくりやマネジメントができる人材です。その方々が将来的には地域の環境保全のリーダー的な立場になってもらえればと思います。

もう一つの側面が，主婦や団塊の世代の方々がある程度の自由になる時間が多いということなので，その方々が少しお小遣い稼ぎのような形で活躍してもらえる場ができることによって，例えば辰口温泉や加賀温泉郷にお越しいただいた観光客の方に，能美の里山，里海を知っていただける機会になっていくことです。

既に能美の里山ファン倶楽部では年に１～２回，蟹淵に案内するような企画も行っております。今後，そういう里山自然塾に入られている方が２～３人のグループを蟹淵や虚空蔵山をご案内していく機会が増えていくのではないかと思っております。

中村　角間の里山自然学校も小学校とずっとお付き合いしているのです。角間でやっていることをご紹介しますと，６～７年前からキャンパスの中に棚田を復元して，田植えと収穫のときに，地元の田上小学校の小学生を呼んできて，一緒に田植えをしたり収穫しています。５年ぐらい前からそれが授業の一部になりまして，子供の田んぼをうちのメイトさんが同じ所に作りました。５年生用の田んぼができていると思います。同じ小学校ですが，竹藪の管理をしているボランティアの人もおられまして，タケノコを取りに毎年来られるみたいです。毎年かなり安定してカリキュラムが入っています。

ただ，私が少し気になっているのは，小学校は授業で活用できればいいと思いますが，こちらはメイトの方がすごく前向きにお世話をされているのですが，小学校の先生が何もできないのです。小学校はものすごく受け身になっているのではないかと思います。普段の田んぼの手入れなどはあまりやっていないようです。現在の小学校の授業の仕組みなどがあって難しいのかもしれません。それで，つい先日，小学校の校長先生，先生，そしてうちの担当者がワークショップをやって，お互いに意見交換をしているはずです。これからももっと発展的に続けていけたらいいと思うのですが，ただ，ある程度レギュラーになったとしても，それがどんどん広がることはなかなか難しいような気がします。

もう一つ，私は里山自然学校を始めたとき，大学の割と大きな林で，しかも垣根も何もないので，そこを自由に使えるようにすれば子供たちが放課後や土日などに遊びにくるかと思っていました。なかなかそうはならないのですね。やはり，管理が悪くて山が茂っていることもあるでしょうが，それだけではなく，割と自由に入れるようにしても，お世話をする人がいるとか，何かもう一押し二押しやらないと展開していかないような気がします。小学校にサービスするような形は教育学部ならもっと専門的にやれると思います。ただ残念ながら，教育学部という形では取り組んでいないのです。割と毎年同じプログラムでやっています。ですから，能美市でされる場合には能美の里山ファン倶楽部の方がマンネリに陥らないようにいい関係を広げていくことが大事だと思います。

参加者１　実は松が岡という地域はやはり新しい所ということで，ほとんどの地域で子供がどんどん少なくなっているのに，松が岡では子供が増えているのです。それで１～２カ月前，壮年団と子供会の関係者で話し合いの場が持たれました。実は，緑が丘も普段から子供にとってのふるさとづくりということで，まちづくり・地域づくりをやってきたのですが，地域で子育てといいながら，どれだけのことに地域の大

人がかかわっているか。あいさつ運動などいろいろなものを一生懸命やっていますが，そういう環境の中で壮年団が立ち上がり，１泊泊まって何か自然との体験などをさせたらどうかと，いろいろな考え方が出ました。しかし，子供の面倒を見るというのは，やはり愛情にあふれた人手が要るのです。それは親がかかわることが一番いいことだと思うのです。親の教育にもなりますから。幸いそういう機運が盛り上がってきたのですが，そうは言っても何かあったときのことがあるからと，今現実味を帯びているのは弥生会館の前にテントを張るところから始めようではないかという話です。ぜひそれを来年の新しい行事として成功させたいと思っています。

中村　最近よく森の保育園とか森の幼稚園という言葉を聞きます。ドイツやいろいろな所でそういうことをやっているようですが，角間には幸い公民館のような大きな家があります。幸いそんなに使っていませんので，森の保育園や森の幼稚園をやりたい金沢の団体とうまくマッチングできれば，有効に大学を使ってもらえると思います。ただ，それをやろうと思うと，山をある程度整備しないといけない。見ていると子供は何をするか分からないですね。思わぬところで斜面をダーッと滑り降りたりしています。

私たちが今思っているのは，やはり新しい熱心な責任のある団体と一緒にやることです。子供や幼児の場合は何か事故があったら大変なので，それこそ保育や幼稚園教育などの専門家をちゃんと付けていないといけないと思います。そういう人を持った熱心な団体が金沢にも能美市にもあちこちにたくさんあると思います。ですからぜひ，自分のところで適当にやるのではなく，そういう経験を持ち寄ってお互いに意見交換していくというふうになっていくと大変心強いと思います。

ただ，ものすごく手間が掛かると思います。特に今の子供はすぐに何か始めないのですね。かなり前，角間の山の竹林で竹を切って家を造るようなことを，小学５年生を対象に週に２回ぐらい２～３週間連続でやったことがあります。私はずっと付き合っていましたが，見たら，地元の本当の森林作業のベテランの方が，自分のお孫さんのような子供たちに，竹を切って，縄を結わえていって一生懸命教えておられるのです。子供たちは全然興味を示さないのですが，その方は黙々と自分で竹の家を造っていかれました。すると，２回目か３回目のときに家の形が大分見えたのですね。家といっても掘っ立て小屋のようなものですが。そうすると，子供たちはがぜん興味を示したのです。それからあとは自分たちでどんどんやりました。それは私にとって大変新鮮な経験でした。今の子供たちは何もしたことがないのです。のこぎりで竹を切ったこともない。ですから，相当根気よくずっとお付き合いするような態勢でいかないとなかなかうまくいかないような気がします。

参加者７　私は里山ファン倶楽部で，今年実際に能美市で小学生対象に里山自然学校を３回やりましたが，年間とおしては「キノコクラブ」ということで，春にキノコの食菌，２カ月後に菌種学をやりました。それは半日くらいで終わって，１回目のときは，山菜を採って天ぷら料理をしました。２回目は湿地へ行って，ハッチョウトンボなど湿地の昆虫観察をやりました。秋は，さっき小川さんから紹介がありましたように，枯れた木を切ってベンチを作って座りました。

子供たちが特に昆虫などのいきものを見ると，目の色が変わってくるのです。別企画として夏にキャンプをやりましたが，そのときは川のいきもの調査ということで，普段川に入ったことがない，魚を捕った

こともない子供が，動物園の山本さんの指導を受けて魚を捕ってみた。いろいろな魚が捕れます。中にヘビがいて，動物園の方がヘビを捕まえて，「これに触ってみろよ」と。初めは怖がって触れなかった女の子が実際に触ってみた，こういうときも子供の目の色が変わってくるのですね。だから，普段，家で体験したことがないことを子供が体験するのは，いかにいいことかを実際感じました。

この後，1月・2月に冬のプログラムがあります。また，これはファン倶楽部と関係ないですが，ネイチャークラブ能美というものを私が立ち上げ，そこでバードウォッチングと2月にかんじきハイクをやります。それを募集しておりますので，この場をお借りして宣伝して，たくさん参加いただければと思っております。

●組織づくりと各組織の連携

参加者5　中村先生に一つお聞きしたいのですが，中山間地の辰口にある仏大寺から大口町まで続く集落は年齢的にも高年齢化しているということです。ここを単なる都会人の癒しの場ではなくて，住む人たち自身の生活も潤って，またその魅力を，本当にその人たち自身の喜びの中から自分たちで情報発信できるようになったときに，やはり共生できることになると思います。そのとき，私が自分たちの新田開発理事全員で合い言葉にしているのは，言葉でいろいろと人を癒すのではなくて，やはり自分たち自身が鍬を握ってやっていく中から実体験に基づいていろいろやっていこうということです。

そのときに，最初は精神科の先生方や精神福祉士の指導も受けてと思っていましたが，やっていく中で，どうもこれは違うと。今思っているのは，やはり園芸福祉という中でやっていきたいと思っています。来年は本格的に田んぼも作っていきたいし，現在，丸いもやハーブなど野菜をやっていますが，そこも真剣にやっていきたいということであれば，その行き先は，トキの舞う大空の中で農薬があまり使われない，ごく自然な加工での有機農業にいくのが当然の流れですよね。

そういう全体が見えてくると，やはりキーワードとして一つは，命にかかわるものが出てくるのかなと。もっと言えば，横に手取川がありますから，水の浄化をきちんとした中で，辰口から能美までできる素材の品質評価を高め，たくさんいいものを生み出し，付加価値を高めていくのが大事だと思っています。

能美市の中で魅力あるものを作っていくときに必要なものは，やはり組織づくりだと思います。農業では宮竹の水利組合や用水組合なども含めた組織づくり，もう一つ言えば企業です。パブリックの中に企業にどう入っていただくか。能美市の中にある企業，あるいは白山市も含めて企業が賛同していくことを，ぜひ考えてほしいということが一つです。それから，川畠先生にお聞きしたいのは，自分たちの組織で活動していく上でも，やはり一番大事なのは財政なのです。私たちが見付けた特産化できる作物や実証栽培している作物をそう大っぴらには言いたくない。今はカット・アンド・ペーストの時代ですから，「いいものを見付けた」というよりも，それについてある程度担保できるものがあれば一緒にやっていきたい。そういう整理をしていく中で働き手を見付けていくことも大事だと思っています。

谷田　当初，里山ファン倶楽部を立ち上げるときに私が理想としたのは，多様な主体のネットワークによる地域の活性化です。ただ，設立から4年が過ぎましたが，やはり取り組みの課題が膨大に増えすぎています。また，持続可能なための資金調達も重要ですので，例えば遊休地を使った農業，付加価値を付けた農業も重要だと思います。また，物を作るだけではなくて，やはりそれをお金に換える場所や仕組みも必要になってきますが，これは第2分科会の方で話が出ているのかと思います。

農政課にいる者から見ると，小さな取り組みが枠を超えられないというところがやはりあります。補助事業もうまく活用しなければならない。そうするためには，市全体の計画の中に反映する必要もやはり出

てきます。

私も答えが見えているわけではないので逆に教えていただきたいのですが，どうやったら連携できるか。ファン倶楽部で言えば，たくさん活動が入ってくると，それを指導するスタッフがどうしても手薄になっている。そういった中での大学や学生との連携も，今後可能性を見いだしていきたいと思います。その場合，単なるボランティアではなくて，しっかりと単位認定をするという形での対価を与えていただきたいと思います。

市民レベルでも同様です。能美市はボランティアが非常に盛んな所ですが，全く無償のボランティアではやはり長続きしないと思います。ガイドをやって少しお小遣いを稼げるというのも一つの経済活動ですから，対価の位置付けということで能美型のシステム化ができないかと個人的には考えております。いずれにしても，いろいろな思いをつなげるためには，そこをつなぐ主体も必要になってきますから，その役割では行政が一番キーを握っていると個人的には思っています。

企業との連携もやはりそうです。市民の立場からすれば，どこを窓口にして相談したらいいか分からないという話は協働市民会議の中でも出ていて，中間支援組織の立ち上げの話も出ています。キリンビールのお話が出ましたが，私の知っている情報では，一応，北陸工場は撤退しますが，本社からの資金提供により活動は続けていくと聞いております。また，企業の社員の参加が少なくなっていきますので，地域の方々の参加はやはりこれからの課題かとは思います。

●辰口キャンパスの利活用

中村　せっかくの機会ですので，辰口キャンパスの利活用についてご相談したいと思います。ただ，あそこを能美市の市民の方が使うとすれば，初めにどういう条件を整える必要があるかをよく相談する必要があり，単発的にちょっとここを使わせてという形は恐らくまずいだろうと思います。ですから，大学として，きちんとした受入口を作るということですね。

同時に，連携しながら管理もする，教育・研究にも使っていくということだと思います。学生も地域の方や地域の子供たちと接することは，すごくいい効果があると思うのです。例えば辰口にしても，やはりかなり茂ってきていますよね。ですから，道をきちんと整備するとか，道路の脇に近い所は少し刈り込んで迷惑を掛けないようにするという作業が要ると思います。

私個人の考えでは，それをボランティアがやっていてはちょっと間に合わないと思います。特に角間の場合，ものすごく広いこともありますから，やはり森林組合などのプロに頼んで，最低限の所をやってしまわないといけないと思っています。ただ，そのためには森林組合に動いてもらうお金が要るわけです。ですから，そのお金をどう工面するかを大学としては考えなければいけないと思います。もちろん，いろいろな外部のサポーターの団体があって支援してもらえたらありがたいと思いますが，基本的には大学の自己責任だと思います。ですから，ここのキャンパスについても現状を見ていただいて，いろいろな提案やコメントをしてもらうというところから始めて，実際にはどこから始めていくか，どこから使えるようになるかという相談の場を作ればいいと思います。

参加者1　今の件に関して，松が岡地域のかかわり合いをご紹介しておきます。松が岡の下にある用水が，これまでは草だらけで大変な状況でした。それで川全体をきれいにしようということで，数年前，老人会などを含めて立ち上がり，きれいにしたのです。

辰口キャンパスはすぐ目の前ですから，キャンパスのこういう所をちょっときれいにするということなら，かなりの人が立ち上がってボランティアで協力してくれると思います。その代わり，体育館などが空

いているときは子供たちが走り回る所として利用させていただければありがたい。また，あの辺りで親がしっかり面倒を見てやれば，もう少し自然の体験もできます。ですから，そういう利用について行政と大学の方で何か話をしていただいて，生涯学習課か何かが窓口になっていただいて活用できるようにしてもらえると，地域としてはありがたいという思いがあります。

中村　大学も，地域の方がボランティアとして倒れた竹を整理してもらったり，溝を何かしてもらったりしているのを知らないと思います。そういうことも含めて，教えていただけたら。私は今，あそこの実験施設が属しているセンターのセンター長をやっています。また，社会貢献の学長補佐もやっていますので，一応，そういう情報を取りあえず私のところに教えていただいて，具体的な要望を出してください。中に入って様子を見たいということは別に問題ないと思います。ですから，そういう具体的な要望をファン倶楽部として，あるいは能美市としても寄せていただけたら，できるだけご要望に沿うようにしたいと思います。

ただ，体育館にしても研修施設にしてもかなり老朽化しているので，今すぐに使えるかどうかは分かりません。また，将来使うとしたら完全に無料というわけにいかないと思います。

参加者６　和気町から来ました。辰口の山に私の持ち山もあった関係で，かなり山の中に入っています。あそこは貴重な植物やサンショウウオが生息しています。本当に自然が豊富な所ですが，最近，山に入ると歩けないのです。立ち枯れもかなりあります。尾根道には簡単に道を付けることができると思いますが，あそこに付けるとすれば，やはり貴重な動植物がありますから，きちんとした調査をされてからの方がいいと思っております。調査の後，尾根道ぐらいなら私たちでもできますので，そういうときはまた声を掛けていただければ幸いです。

中村　ありがとうございます。あそこは，今でも随分珍しいものがいっぱいあると思いますが，これ以上荒れていきますとだんだん減っていくと思うのです。ですから，いろいろな計画をこちらでも考えていきたいと思います。また声を掛けますので，どうぞよろしくお願いします。

川畠　先ほど，シジミの話が出ていたと思います。県立大にもご相談なさったようですが，山中に内水面の養殖センターがありますので，そこにアポ取りをされるとシジミの情報はかなりキャッチできるのではないでしょうか。また，有機農業の農産物のブランド化についてはいろいろな手だてがあると思いますが，問題は一つのビジネスにするのはなかなか至難なので，それはいろいろな人と議論していく必要があると思います。谷田さんにキャッチボールの労をとってもらえば，私がそれなりの窓口になって対応しますので，それだけ言っておきます。

●横断的連携

谷田　よろしくお願いします。今の内水面のお話が出ましたが，実はトキの餌のドジョウの飼育は，津幡高校が試験的にやっておられます。やはり地元ですので，何とか地域の休耕田をうまく活用してドジョウなどを育てることができないか。それは恐らく，そんなにもうかることはないかもしれませんが，多少のビジネスにはなるかと思っています。

いろいろとご意見が出て，全部が全部お答えはできなかったのですが，行政の中でもまだしっかりと連携が図れていないのが現状です。今，そこを横断的につなげていこうという努力もやっております。取りあえず，今日出たいろいろなご意見については，今後，私の方を窓口にしていただければ，こちらの方からまた関係のところにつないでいきたいと思っておりますので，よろしくお願いします。

あと，大学との連携，特に辰口キャンパスについては公的な場所ですので，個人や特定の団体が簡単に使うことは制約があると思います。そこら辺については，今後また継続的に大学と相談させていただいて，何とか前向きに能美市と大学が協定を結ぶことができれば一番いいと思っています。もし活用できるということであれば，またそのときはご案内させていただきたいと思いますので，積極的な参加をお願いしたいと思います。

中村　いろいろなご要望やこういうことをやっていますという情報などは，もちろん私に直接言っていただいても構いませんが，谷田さんに言っていただいて，取りまとめていただいてもいいかもしれません。どうかよろしくお願いします。今日は本当にありがとうございました。

分科会② 暮らしとまちづくり
（ゴミ，グリーンカーテン，特産品，地元ブランド）

座　長　神谷 浩夫（金沢大学地域連携推進センター　センター長）
副座長　東 孝雄（能美市役所）
　　村本 志朗（能美市役所）
　　浅野 秀重（金沢大学地域連携推進センター　教授）

神谷　午前中はどちらかというと自然環境の話や農学の話が多くて，私は文系の地理学ですので，あまりよく分からないままに聞いておりました。この分科会は「暮らしとまちづくり」というテーマで，午前中の増田さんの美化センターのゴミの話や西出さんのグリーンカーテンの話，宮本さんの地元の特産の話となります。なお，このタウンミーティングの趣旨は，能美が抱えている問題，課題についていろいろな意見をちょうだいして，大学として一体何ができるかを教えていただきたいというものです。

村本　私は行政の人間として直接環境に携わった経験はほぼゼロで，一市民としての立場でゴミの分別をしたいというレベルです。私以上にいろいろな知識なり経験をされている方に声をどんどん出していただいて，大学でできること，市民や行政ができることなど，いろいろ意見を出し合って，深められたらと思っています。

東　私も環境というテーマに関しては素人で，皆さんと一緒にここでいろいろな気付きをできたらと思っております。

神谷　午前中に話題を提供していただいた増田さんや西出さん，何か補足などがありましたら。あるいは，お聞きになった方からのご質問があればお願いします。

増田　持ち込みゴミの木の枝は80cm以下に切って持ってくることになっているのですが，結構切ってこない人が多くて，少しならこちらで切るのですが，あまりにたくさんあると持ち帰ってもらうことになるので最初から切ってきてもらえた方が助かります。

●カラス対策

参加者8　金大にカラスの専門家はいないのですか。うちの町内でも，3カ月ぐらい前かな，夕方，日没の30分前，もう電線にいっぱいですわ。500mぐらい。何か集会をやるのですよ。しゃべっています(笑)。朝のお日さんが出る10分ほど前も集会をやるのです。一斉にどこかに行くのです。夕方また帰ってきて，また討論会をやって，またどこかへ行くのですよ。何をしているのか分からないもので，もう不気味で仕方がない。カラスと仲良く共生するためにカラスの生態を知っておきたい。車など外に置いたら真っ白けです。石を投げたら明くる日から突っつかれるという話も聞くからね。そういう専門の方と共同研究はできませんかというのが一つの提案です。

神谷　私は金沢大学教授ですが，カラスの専門の先生はいないと理解しております。ただ，かつてカラスが嫌がる金属を開発して，イグノーベル賞をもらった広瀬という先生がいらっしゃいまして，今はたしか金沢学院大学に移られたと思っております。ただ，カラスの生態を理解することについて助言したりする先生はいらっしゃらない感じですね。

参加者8　逆に言うと，カラスを撃退すると，行った所がまた迷惑するわけです。だから，生態が分かって，そうなのかという理解があれば，そんなに不気味な感じはしないのですが，天敵もいなくてどんどん増えていっているという感じがしています。

　僕らは正直言って，金大に関しては，あそこに土地があるのだけれども，全く認知度ゼロです。何をされていて，開放されているのか，あそこの土地に入ったらいけないのか，入るときにはどうしたらいいのか，どんな設備があって，どんなことが分かるのか，全く広報もされていないし，まだ先端大の方が結構行くチャンスもある。だから，何か共同でやりませんかと言われても，一体何をされているのと。大学と能美市の方が角間も含めて全体で環境問題を一緒にやりましょうというのか，その辺を冒頭に聞かせていただきたい。

●共同研修センターの市民利用

神谷　難しいところですね。こちらに開催することを決めたのも，今のところあまり大学として共同研修センターを利用していないので，市の方から少しお話が何かあったらしいのです。だったら，地域に開かれた大学として，皆さんでこれから有効利用するために，会議を開いてご意見をちょうだいしようというのが趣旨なのです。ただ，大学としてこれといった方針はない。これまで角間でやってきたのは，里山での活動です。今の学長も社会貢献の初代の室長で，里山の活動をかなり推進した人物です。そういうこともあって，今回の部分は割と里山の保全や環境保全型の地域社会づくりというテーマで議論することになってきたわけです。

参加者9　前の辰口のとき，松が岡におられた金沢大学の小村先生，あとは江藤先生，大久保先生，そのお三方が中心になってフレンドシップ講座をしていました。それは小学校5年生の子供たちを対象にして，1泊2日で自然の中で遊ぶという感じですが，その中で例えば低レベル放射能実験施設を利用する。あるいは，1泊するのに最後は和気あいあいの里を利用していましたが，研修センターを利用したこともあったと思います。江藤先生は教育学部の先生ですので，教育学部の学生たちを連れて，実際にナイフを使って木を削ったお話をなさっていました。そのプロジェクトは予算が付かなくなるまで実際に毎年やっていただいていましたが，今はもうなくなっていますし，その先生も退官されています。

　ただ，先日，江藤先生にお会いした折，今は予算がなくても自分たちで協力してやっていけるのではないか。私自身は，今，例えばエコ未来塾などが子供たちを集めて行事をやったりしていますので，子供たちと一緒にする活動を担える団体もある。要は泊まる場所などで研修センターを利用させてもらうとか，いろいろ協力のやり方はあるのではないかと思います。

浅野　今，お名前が出た先生以外にもう一方，緑が丘にお住まいで，今は隣の分科会に出ていらっしゃる中西先生という先生がいらっしゃいます。この先生は，科学教室というもので辰口町の子供たちとかかわっているというお話をされております。例えば公民館など，子供たちが集まることができる所があれば，そこでやれる可能性もある。

　それとともに，私たち地域連携推進センターの金沢大学社会教育研究振興会には，各自治体からも負担金を頂いてやっている事業があります。その中で例えば能美市のここでこのような講座をやりたい。その

ときに金大の先生に来ていただいて指導をしてほしいといった場合，その経費を各自治体で負担していただいている経費の中から支出できるようになっておりますので，生涯学習課等にご相談いただいて話を上げてきてくだされば，子供たちだけではなくて大人の皆さんの環境についての学習なども，その経費の中でやることはできるかと思っております。

神谷　周辺の住民の方に辰口キャンパスを紹介して理解を求める活動がかつてはあったのでしょうが，最近はちょっとおろそかになっているということでしょうか。

参加者 8　このキャンパスは原生林のまま置いておくのが目的ですか。そうではなく，オープンだからどなたでも入ってもいいのですよということなのか。あそこには別に何も書いていなかったね。立ち入り禁止とか。

参加者 9　もともとああいう山は入会地で自由に入っていいのではないのですか。

参加者 10　あそこに管理人さんはいらっしゃるのですか。

参加者 11　あそこを理解することから始める。誰か使ってくれというので，まずはお互いが知った上で，ではどうするかという。

浅野　あそこを大学としてはどうするつもりなのだという意見が強く出たということは伝えておきたいと思います。だから，大学が能美市へ提案して，このような感じで活用したいと思っているが，能美市の皆さんはどう思うかねという形でのやり取りを，また改めて何らかの機関と機関の間でする必要があるのか。今日のタウンミーティングでどういう方向で使おうとしているのかが結構強い思いとして出ましたと。それと同時に，活用の可能性のあるものならば，市民としても活用したいという思いが背景にはあったというつもりで伝えたいと思います。

先ほどの子供対象等の事業については，可能性がないわけではない。その経費は，予算化は多分なくなったのでしょうが，市や町が負担金を出していただいた事業をうちの方でも窓口として持っていますので，やれる可能性はあると思います。

参加者 8　それは地元還元策みたいな感じですか。

東　あのときは，結局，江藤先生と大久保先生は教育学部なので，学生さんの育成のためなのです。教職の一課程。学校のカリキュラムの中で，旧辰口時代の中学校に上がるまでの５年生の集団生活というか，リーダーシップをとろうという形と合わせて両方で，予算でああいうことをやったという経緯です。

参加者 9　その後，能美市になってフレンドシップ自体はなくなったのですが，野外研修というのはあって，そこで個人的に江藤先生を通じて学生にボランティアで来てもらって協力をしてもらったことはあります。

僕はそのときに大学にお願いしに行ったりしたのですが，やはり大学，学生ということを考えたときには，大学生は時間があって，フットワークが軽いのが一番のメリットという気がします。そのときにもボ

ランティアやアルバイトのところにお願いしに行ったのですが，例えば先ほどの里山も，企画をしたり世話をしたりする人手が足りない。それはほかの団体でも共通の悩みだと思うのです。学生のフットワークの軽さを生かして，研究だけではなくて，地域に送り出すような仕組みというか，受入体制というか。逆に学生の方にも情報が行きやすいような体制をとっていただけるといいのではないかと思うのです。

参加者 8　お隣の小松市が，全部高校が郊外に出たでしょう。市内が寂れるはずですよ。若者が全部郊外に行ったわけですからね。短大は粟津の向こうでしょう。そのように考えたら能美市というのは大学が二つあって，しかも，高校もあるでしょう。若者が集まるチャンスはいっぱいあるのですが，金大もせっかくここにあれだけ広大な地面があって何もないというのが非常に寂しいね。

僕らも先端大学院はこんなふうにしてくれますよという情報をどんどん金大に入れたら，金大だって動かざるを得ないと思うのだけどね。

村本　そうですね。僕も直接担当できる仕事の分野ではないのですが，先ほど市長も，大学の本体があるから今まで先端大でやっていたけれども，これからは金大との連携も考えていく必要もあるかなということも言われていたと思います。今回のこのミーティングが一つのチャンスだと思いますから，そういうことをまた。

参加者 8　やはり明治以降の雄だからと僕は思いますが，あまりにもなじみがない。金大というのは出掛けていかなければいけないという感じなのです。

参加者 9　金沢大学はあそこの用地を買ったタイミングと現在置かれている社会的な環境，自然環境とは全く変わってきている。今，里山を含めた問題がこれだけクローズアップすることが前提にあったわけではない。あの土地を取得したときには，まだ松が岡はなかった，動物園はない。加賀産業開発道路もなかったかもしれない。ただ，現在，あそこにああいうものがあるということが，里山を含めた自然環境の保護ということで，今，改めて使われ方が何かあるのではないのということだと思うのです。

私は灯台笹という所に住んでいるのですが，先端大学ができる前は私も山を売りました。どんどん自然が変わってきているのですね。灯台笹は今年も多くの方がホタルを見にわざわざ来るわけですよ。しかし，自然を残すということは非常に難しい。開発はいとも簡単です。灯台笹のホタルがいるのはわずか 90m の河川なのです。あれは全部三方コンクリートになる予定だったのを変更してもらって残してもらった。

今，宮竹用水がとんでもない費用をかけて，どんどん河川改修をしています。今年も 9600 万使っているということです。そういうものを一遍通した後，三方コンクリートにするくらいならば，石積みの河川改修はできないのかということも，当然今後あると思う。

あの金大の敷地の中にある昔の小川をどういう形で残していくか。私は野鳥の会が長いのですが，野鳥も自然環境にものすごく大きな役割を果たしています。そういう鳥をあの中にどういう形で残していけるのか。増やすのは非常に難しいことですが，残すことは人間の努力によっては可能だと思いますので，今からが逆にあの用地の問題を含めた環境の在り方，地元と金大の付き合いの在り方のスタート点ではないかと考えています。

それと，先端大学にしても，ISO14000 を取っているか僕は知りません。しかし，夜にこうこうと電気をつけている。また，この町内のある企業もそうですが，とんでもなく地下水を使っています。そこの排水路に行くと，手取川の本流以上にきれいな水が流れています。しかし，地下水も有限なのです。そうい

うことを含めて，身近な環境のチェックができるようにわれわれはしていかなければいけない。

金沢大学もやはりISOを取って，現在の基準に対して次のステップをどうしていくか。ISOは改善，改善，改善ですが，やることによってそこに携わっている職員，学生を含めて，全員の意識が変わってきます。

神谷　確かに低レベルの放射線の実験施設ができた当時と状況が変わって，今は敷地の環境が，ある意味では新しい価値を持ち始めたということが多分あるでしょう。だからこそこういう会議になったと思うのです。大学としても，今日ここへ来ている2人は，低レベルの実験施設，あるいは研修センターの利用状況がどれくらいかはあまり把握していない。

参加者11　今は低レベル放射能実験施設も研修センターもほとんど利用されていないと聞いています。

神谷　もう定年になって辞められた先生はちょくちょく使われていました。

参加者11　私自身は35～36年前，あそこを学生として利用したことはあります。北陸3大学で学生が共同で利用していました。あとは金沢大学の剣道部が本学の体育館を使えないときにあそこの体育館を利用するとか。

あとは，低レベル放射能実験施設は大学院の学生があそこで勉強していますので，ほかの学生は授業で1週間に1回ぐらい出るのではなかったかな。私自身はそこで産学官連携研究員ということで研究のお手伝いをさせてもらっています。

研修所には体育館もあって，今は剣道の練習に使ったりしています。もともとは中にお風呂もありますし，学生が泊まってあそこで勉強するとかいう研修所として造られたものですね。低レベル放射能実験施設については，土日でも誰かが出て研究に励んでおられますから，ほとんど毎日開いていると思います。夜も遅くまでおられます。ただ，最終的に人がいなくなると本当に人気はないですね。坂を上るのも暗いですし，熊が出てくる可能性もあります(笑)。

●グリーンカーテンをめぐって

参加者8　グリーンカーテンのことをお尋ねしたいのですが，全く素人なので分からないのです。要するに陽の当たる部屋ならどこでもいいということで。

西出　上の方の窓ではなくて，上から下まである窓の所にすると，本当に効果を感じました。場所は当然，朝日の場所で限定しますが，自分の家の都合のいい所，西日の方でもよろしいです。

参加者8　「緑がある豊かで心のあるまちづくり」とかいうのが一時はやったことがある。皆さん土地を持たれると，多分，三方，家の周りのどこかに木を植えるのです。しかし，最近言われているのは，子供たちが学校から帰るときに，あまり陰に隠れる所をなくしていきましょう。子供たちが車が来てもさっとよけられて，そこで立ち話ができる。僕はそんなまちづくりを今からやっていかなければいけないと思う

のです。そうすると，これまでやってきた，単純に家の周りに木を植えましょうというのは，僕はどうも今は転換期だと思うのです。

僕が言いたいのは，今，道路を歩いてみても，道路に面した部分に生け垣という家が結構あるのですよ。これは道とまさに接しているのです。子供たちは車が来ると，生け垣にべたっとくっついて車をやり過ごさなければいけない。これは一番危険だし，ちょっと中に入ったら見えないですね。どうするかというと，町内会であそこは暗いからどんどん街灯を立てましょうとどんどん増やしていくのです。これは決していいことではないですね。

それよりも，昔のことを考えたら，どこのお宅でも居間からの木漏れ日がずっと道路にあったのですよ。居間に電気がつくころは薄暗くなったときでしょう。子供たちがクラブ活動で7時か8時に帰るときに街灯の電気がぽつんぽつんとあるよりも，各家庭から木漏れ日があって，しかも，車から逃れるような何メートルのスペースがある。僕は今の植え込みを取ってしまって，ちょっと下がれば，入れると思うのですよね。

今から高齢者が増えていくと，今までは奥さん方の井戸端会議は空間を見付けて話し合ったけれども，男だって本当はだんだん家に居るようになると，やりたいと本音は思っている。そうすると，生け垣づくりで今やっていることはそこまで考えているか。道路に面した所は粗くする。僕はグリーンカーテンオールマイティーというのはあまり賛成したくない。

西出　本当にそういう生け垣という考え方ではなくて，窓に入ってくる光を少し遮るという感覚で取り組んでいますので，木漏れ日が外へ出ないというまでにはなりません。

参加者9　私はこのグリーンカーテンは非常にいいなと思うのです。アサガオでも植えて水をやりながら育てる。「ああ，大きくなったね」と語りかけていく。そしてまた，咲いたときの美しさもあるし，それは花を作ると同時に，人それぞれの心を作っていくと思うのです。ただ，これを一遍に普及するのは大変だと思うので，6月第1日曜日に花いっぱい活動を各町内でやっていますので，ああいうところで希望者に配るという方法もあるし。公民館管理人が老人会の花いっぱい活動の花に水やりをやってくれる所があるのです。そういう所でモデル地区を何地区か作ってやってみて，その人たちの意見を聞いて，良かったら地域の中でしていく。いろいろな課題があるかもしれませんが，やってみた結果を見て，また次の問題にチャレンジしていくことが大事ではないかと思うのです。

参加者11　グリーンカーテンの説明のところで，西出さんはCO_2の削減という言葉を口にされましたが，私はそこへいく前に，例えばクーラーをつける回数が減ったので電気代が下がったとか，その辺の話は実際にどうだったのかなという興味を持ったのですが。

西出　私たちは単純に見た目が涼しいからいいねという感じで取り組んだのです。また，こういうふうに報告するという感覚もなかったので，データを取るなどは一切やっていなかったのです。一度インターネットで温度が何度下がるかと調べたのですが，自分たちがそういう調査をしていないのに，資料を取っただけで報告するのも何かなと思って単なる報告にしました。

●ゴミを減らす

参加者11　ぜひ主婦の生活実感として，これだけ電気代が下がりましたといった宣伝をしていただきたいなと思います。エコと皆さん言われますが，私自身は経済合理性がないと活動として長続きしないと思っ

ています。ですから，エコポイントという言葉も出てきましたが，あれが果たしてエコ活動に経済合理性を与えるのかについても疑問に聞こえました。

ゴミ焼却についても，草など湿ったものを燃やすのに金がかかる，燃料をよく使うと言われましたが，実際に草を燃やすのに年間の焼却代がどれぐらいかかっているのかなと気になったのです。というのは，私の住む緑が丘ではクリーンデーで，草刈りを一斉にやるのです。緑が丘の中には10個の町内会があって，1町内会が1台のダンプカーに草を積むのです。1回運ぶだけで，それで10台分ですよね。中には2回運ぶのかな，少なくとも15～16台以上はあります。そして，乾かしてと言われましたが，実際はその日のうちに全部運んでしまいますので，湿った草を燃やすことになるのです。ですから，実際に年間で草がどれだけ運ばれて，それを燃やすのにどれだけ燃料代がかかっているのかなと気にしながら聞いていたのです。

空いた土地がたくさんあるわけですから，休耕田に草を置くというのはどうかという発想を私は持って農家の方に聞くと，草の種が付くから嫌だと。実際は休耕田をそういった置き場にすることはできないのですが，ほかにも土地がたくさんありますので，その辺に草を置いて腐葉土にするとか。それに焼却代の半分を管理してくれる人材に回せば経済合理性がそこに生まれると思います。

増田　焼却や破砕の施設，埋立施設の維持管理には去年3億9000万円ほどがかかっています。ゴミの量が減ることによって，施設の延命化や維持管理費用の削減にもなりますので，ゴミを減らしていただいて，長く使えるようにお願いします。

参加者11　ぜひ草の量を量って，その焼却代はこれだけかかるというのを導き出してください。ゴミ焼却場に入るときに車の重さを量りますね。出るときの重さとの差で分かります。

神谷　バイオマスの話は日本共通の話です。例えばペレットにするという話です。ただ，そのときに乾燥のコストがかかるだろう。だから，そこの部分のコスト削減をうまくやる方法をもう少し工夫する必要があると思いながら聞いていたのです。

参加者11　ただ，最後の説明で，ペレットではなくてまきでいいという話も出ていましたよね。輸送して外に出すことを考えない限りは，まきでいいのではないかなという気はしますが。地元で利用するということで。

●地元の名産発掘

参加者12　宮本酒造から「のみよし」の話があったのですが，能美市の場合は結構大きい会社がたくさんあるのです。例えば，昼を食べるときに，これは能美の丼だぞとか，これは能美の山菜だとか，これは能美で採れたシジミだぞとか。そういう能美に来たからこそ食べられるものはもっとあってもいい。

例えば，いしかわ動物園に来たら，ここの丼の手取のアユはおいしいぞとか。何かそういうブランド品があると非常にうれしいなと思うのです。のみよしで一杯飲みながらでもそういう語りをしたり，子育ての話とかいろいろな話ができたらうれしいなと，私はそう思いながら聞いていました。

神谷　多分，そういう素材そのものはいっぱいある。だから，その辺のところをどういう形で作っていくかということだと思います。

参加者8　例えば，金沢大学で環境面でこういう先生がいらっしゃって，こういうものは非常にお得意というか，知見の深い方なのですよというのは，公開されているのですか。

浅野　うちのホームページの右側に教員総覧というのがあります。これは全教職員，少なくとも自主的にデータを入れた先生はすべて出ています。そこには，研究のテーマ等とともに，先生によってはしゃべってもいいよという講演可能テーマも入れてあります。そのもの以外に，今，学内で整備しているものに，もっとシンプルに，その先生が一体何を研究していて，どんなことをやっているかが分かるものがあります。

参加者8　一般的には，国の予算が付いたり，学問的なバックがあったものはよく出ているのですね。僕が今知りたいのは，趣味とはいきませんが，プライベートで手取川の河原へ行って石を拾って養分や成分を調べることもやっているとか。そういうものが私たち市民からすれば，お気楽にお付き合いできる世界なのですね。でないと，今，行政と組んで何らかの予算を計上してその先生に接触しないと，まず相手にしてもらえないと思うのです。

行政にお聞きしますが，手取川の左岸はやはり国土交通省の管轄で，能美市としては全く触れない所なのですか。

●手取川の有効活用

村本　左岸の方には旧辰口で言えば「手取川水辺プラザ」というのがあります。

参加者8　あれは単なるベンチだけでしょう。だって，鶴来から見たら，延長十何km，大変な自然環境があるのに。しかも，あの堤防の幅は随分と広くなって，僕らが小さいころはこんな狭かった所をどんどん広くして，川の中から砂を削って上へ落として，ずっと放ってあるのですね，何ら変わらずに。

川北の方はグラウンドを造ったり，公園を造ったり，花火大会もやって，少ない資源を有効利用されているのに，左岸は何も使っていないですよね。せいぜいフィッシュランドがうまく隣接して駐車場に使っているけれども，何で誰も触らないのだろう。国土交通省の管轄だから，おまえらは構うなと言っているのか。これこそ金大のプロジェクトを組んで有効活用みたいな企画案を作ったら。あれは大変な面積ですよ。

参加者11　有効活用では実際にどのようなイメージを持たれているのですか。

参加者8　僕はまだ分からない。そういうことは全く触っていけない部分なのか，考えても無駄なのか。そこはどうですか，行政の方，能美市は全くアンタッチャブルなの。

村本　基本的に，今，能美市総合計画というまちづくりを進めていくバイブルがあるのですが，そこに書かれている絵では，水辺のふれあいゾーン的な枠組みには設定はしてあります。しかし，実際に事業が何かあるかというと，特別今のところはないですね。手取川から向こうは，今の計画では特別これというのは考えていません。

参加者13　触らないことによって維持されるものもありますしね。初めにありきというより，失われたものをあれが良かったと振り返るよりは，失わせないために今の状態をある意味ではそのまま置いておくということも一面においては大事という気もするのです。

参加者 11　放っておくというのは，ただ認識をしないで放っておくという意味ではなく，必要性や重大性を認識ながら放っておくという意味ですよ。

参加者 13　分かりますよ。良きものは保存するし，悪しきものはなるべくならば抑えようと。

神谷　前に，県の水産試験場までサケが上がったという話がありました。あれは昔，鶴来ぐらいまでは上っていたという話ですね。だから，この辺で放流したらまた戻ってきますよね。だから，そのような使い方をするというのなら，生涯教育というか，子供の教育の場には十分になるし。今のシジミの話，あれは手取川の河原で採れたの？

参加者 14　昔は，シジミは本当にどこででも，少し川底が砂地の所は，この辺で結構あちらでもこちらでもいたと思います。現在，県立大学の周辺に，まだ淡水で残っているシジミが少しは存在するらしいです。今，日本のシジミというのは，ほとんど淡水と海水の混ざり合った宍道湖，青森とか秋田とか三重とか，そういう海水の所で採れるそうで，現在，能美市の人でシジミを復活できないかということで少し調べている人もおります。

午前中からお話をお聞きして，皆さんいろいろなことをされているのだなと思いました。何十年後，農業でも林業でもきちんと生計が立つという社会ができていると仮定して，それに向かってどう進んでいったらいいのかという見方も大事な見方ではないかという感覚を受けました。

●日常的な環境への取り組み

村本　第２分科会は「暮らしとまちづくり」ということで，ゴミやグリーンカーテンという日常的なレベルの問題，そして地元ブランドや地産地消の問題を扱うことにしていますが，こちらの分科会に参加しようと思った皆さんは，日常的な環境の取り組みを何かされているのかな，それを皆さんに一言ずつ，せっかく来たのですから。

参加者 8　やはり普段生活している中で，自分に関係する環境とはゴミや電気が多いのですが，美化センターの発表を聞いていて，何となく分かっていることをもう少し詳しく分かったかなという気付きがあって。分別とか，ある程度皆さんされていると思うのですが，お話の中にあった生ゴミの水切りをすると焼却の量が減って CO_2 が削減できて，焼却炉の寿命も延びるという話など，もっと PR してもらえたらいいのかなと。

例えば金大と協力して場を作ってもらって，そこに出向いて話をするとか，そういうこともすると，もっと知識が増えていいのかなという気がします。

増田　私は美化センターに勤めていますが，大事なのはリデュース，リユース，リサイクルの順番です。僕は友達から要らなくなった名刺入れを頂いて再利用しています。

先ほどの西出さんのグリーンカーテンの話ですが，あれは僕の家も裏手にある上から下までの１間ぐらいの窓にしてみようかなと思いました。

東　僕も美化センターに勤めていますが，職業柄，まずはリデュースに気を付けて，割りばしなどを使わず自分のはしを持参する，紙コップなども使わずマイコップを使用するという取り組みをしております。

僕も家族でグリーンカーテンをぜひともやってみたいなと思いました。

●地下水の汚染の心配

参加者 15　美化センターがあそこを造られた当初は雨水などを地下に浄水して流すということはなかったと思うのです。ゴミを山に埋めたと聞いたのですが，以前に埋めたゴミが雨などで地下水へ流れていって地下水を汚染するなどはないのでしょうか。市として全く安全ですよということなのでしょうか。僕は不安でしょうがないのですが。

東　施設を維持するに当たって，法令などで決められたものの測定はしています。これからもそういうことは続けていきたいとは思います。

参加者 15　例えば，その近辺で地下水の水質調査などはやられているのですか。

東　あくまでセンターの敷地内の地下水で調査を行っております。

参加者 15　私がこういう不安を感じたのは，自分自身も水の販売を２年ほどやっていて，敦賀まで水を売りにいったことがあるのです。敦賀の人もミネラルウォーターをものすごく買うのです。なぜかというと，数十年前，敦賀の山の部分に産業廃棄物か何かを埋めたとか，放置したということで，それが今になって水質汚染で水道に影響しているという新聞記事が出て，大きな話題になったのです。僕がこの市に来てこれで 11 年になるのですが，来た当時にそういうことを聞きましたので，まだ自分自身が不安から抜けきれないのです。

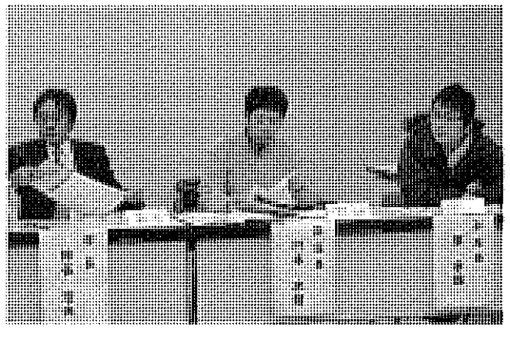
せっかく手取川があって，伏流水がある，こんなにきれいな水の町にそういう不安があれば非常に問題かなと思って質問させてもらいました。

東　水質検査は美化センターは自分の敷地内でやられていますし，敷地を出た部分については市が確かしているはずです。地下水までは分かりません。

参加者 15　例えば１年に一遍広報とか何かに，水質検査をした結果を市民に報告したり，知らせることは。

東　また担当の課に伝えておきます。

参加者 16　関連しますが，旧処分場のメンテナンスはどうなっていますか。



東　旧辰口時代はしていましたが。

参加者 16　あの排水処理場も全く動いていませんよ。あそこだって化成が来て，先端大学がその脇を取っているのです。あそこも莫大な埋め立てになるのですよ。ですから，新しい美化センターが現在の

所をメンテナンスするのは当たり前ですが，行政として前の所はどうなっているの，埋めっぱなしで後は先端大学の駐車場になっていますという問題ではない。調べてください。

参加者 17　旧の所も灯台笹は湿地の所で水質検査はしています。出水，出る所です。

参加者 16　グリーンカーテンはうちもやっているので大賛成なのです。飛騨高山は非常に狭い道ですが，夏から 11 月ぐらいまでやっています。多分，品種が違うのでしょうね。ぜひ，広めていただきたい。

手取川の方の草むしりの件ですが，私も住んでいるのでよく分かるのです。確かに生の草を刈ってすぐ運んでいましたね。僕は自宅ではよく草むしりをしていますが，基本的にゴミは出さない。例えば，あそこの丘陵地は全部山を削ってあるのです。木を植えても何をしても，スコップを入れたら，カツンカチンと岩石が出てくるのです。僕は順番に 1m ぐらいの穴をスコップで掘って，刈った草をそこに埋めていきます。

ただ，公共のグラウンドの周りなどはどうしようもないから，何かいい方法があればという感想を持ちました。

参加者 18　私も環境に関しての感想ですが，私のところは 2 年ほど前から用水にホタルが現れているので，非常に環境が良くなったと私は感じています。農業用水なども見ていると，かなり下水道が普及して，土上げするときのにおいもなくなってきています。

参加者 19　ゴミ処理施設や水道水が安全であるという根拠として水質検査を挙げていますが，それは安全であるだけであって，決してきれいな水や環境であるわけではありません。そういったことをもっと根本的に追求するところまで話を掘り下げていける議論がされたらいいと思います。

西出　グリーンカーテンを婦人会として今からも進めて発信していきたいと思いますし，自分自身がやはり一番感じるのは生ゴミのことを何とかならないかということです。前に金沢で腐葉土と米ぬかで新聞にくるめば簡単に処理できると聞きましたが，自分がやってみて，やはりうまくいかなかったのです。いい方法がないでしょうか。

参加者 20　私も一主婦として環境にいいことを何か一つでもと思うのです。私の家は 5 人家族ですが，週に 2 回出すゴミは小さい袋で半分ぐらいしかありません。というのは，生ゴミを私は毎日バケツに入れて畑へ持っていくのです。畑のコンポストの中に入れて，腐食菌をまいて，どんどん蓄積させていく。それを別の大きな枠に主人があけて，それを堆肥にして畑に戻す。そういうことを家族みんなでしています。

●バイオマスタウン構想

参加者 21　私は市役所の中で環境関係のセクションにいます。皆さんどのようなお考えを持っておられるのかということをお聞きしたくて今日は参加させていただきました。

当市では環境基本計画に 22 年度から具体的に取り組んでいこうとしています。まず今はバイオマスタウン構想を作っておりまして，今の予定では来年 2 月から 20 日ぐらいの期間を設けて，パブリックコメントをお願いしたいと思っています。各窓口センターに計画書を置き，ホームページにも載せたいと思っていますので，どんどんご意見をいただきたいと思います。

ゴミの量は徐々には減っておりますが，まだまだ減るのではないかなと思っております。特に水分の多

いものを処理すると費用もかかるし，焼却炉自体の寿命も縮まるという現実問題があります。水分を切るのが大事ということで，小松市の方ではスイカの食べかすを天日で乾かしてから出しているという所もあります。各家庭から出る調理ざん，キュウリのへたや大根の葉っぱなどをそのまますぐに袋に詰めるのではなくて，ぎゅっと押して水分をできるだけ絞り出してから袋に入れるなどしていただければいいと思います。

参加者 22　私が今続けていることは雨水の利用ということで，昔は各家庭にあったのですが，大きなたらいのままで雨水を受けて，夏はプランターにやったり，冬は大根を洗ったりしています。

参加者 23　私は今年，小学生を 3 年から 6 年まで集めて環境ミュージカルをやったのです。人間たちが腐らないものを山や川に放る，キツネやタヌキと虫たちが怒り出して，人間に脅しの舞をする。昔は山には山の香りがあり，風があり，音があったが，最近は変わったということで，そういうものを組み合わせて，人間がいることによって山が変わった，動物たちがストライキを起こして人間を脅したと。人間が反省をして，動物と人間も老人も子供も共存共栄の自然体を作ろうというミュージカルです。

参加者 24　私も行政にいてゴミのこともやっておりましたので，生ゴミは必ず埋めております。美化センターで分別収集しておられますね，鉄は今でも有価ですか。本当はそういったことをもっと皆さんに知らせてほしい。鉄は売れるのですよ，鉄はどんどん持ってきてくださいといった逆の PR もいいのではないかと思うのです。

それと今，ペットボトルのキャップを集める運動に取り掛かろうとしております。先日の新聞にボーイスカウト連盟の方にキャップを持っていったという記事が出ておりました。これは発展途上国のワクチンになるのですが，「地鳴り」に何で行政はペットボトルと一緒に出せる仕組みを作らないのか，そういった取り組みが各市町村によって違うといった反論が載っていました。

参加者 25　金沢大学の地域創造学類で勉強しています。大学と地域の人が一緒になって勉強や活動をするということで，学生の視点で伝えたいなと思ったことは，やはり学生は何かきっかけのようなものがないとなかなか動けない。そのきっかけは，こういう活動をしますよという紙だけを渡されても分かりづらいし，体験もできないのです。例えば授業に来てもらって直接話してもらうなどすると，結構関心を持てる学生も多いです。また，やりたいと思っていてもどういう人に頼んだらいいのかが分からないことがあるので，学生の前に立ってもらって地元の人が話をするとすごく分かりやすいと思いました。

グリーンカーテンという話で僕が思ったのは，もっと広めるために，小学生は夏休みに課題研究などで，例えばヘチマを家で作ってもらったらどうでしょうか。ヘチマを作った場合，ヘチマをその後利用して化粧水にするというと，科学にもなると思うのです。

神谷　まとめということです。前半の辰口キャンパスの在り方に関しては，能美市とこれからどうやっていくかという前提の部分で，大学の方からあまり明確な答えが出ませんでした。それは大学全体の認識になっていないということであり，これから早急に考える必要があると思います。後半になってグリーンカーテンや美化センターの話がありました。身近な環境の中で行政が取り組めること，住民自身が取り組めること，あるいは大学でやるべきことという形でいろいろな意見が出されました。

非常に粗いまとめ方になりますが，このような形で皆さんからいろいろなご意見をちょうだいできたの

ではないかと思います。どうもありがとうございました。

分科会①報告　自然とまちづくり

谷田　最初に午前中の話題提供の方から補足をしていただきました。その後，ご参加いただいた方からちょうだいしたご意見を順番にご紹介したいと思います。

まず，この能美市の恵まれた環境のありがたみを地域の市民自身があまり感じていないというご意見がありました。例えばいろいろな名所を案内するガイドがいればいいとか，岩本町にあるキリンの森が今後どうなるのかという心配をされている方がいました。

根上地区の方から，シジミが最近少なくなってきた。そういったシジミの復活，環境の保全をやっていきたいとか，下流域の水質の浄化の取り組みも必要ではないかということでした。また，手取川での川遊びの復活というご提案もありました。

農業をとおして癒しの提供に取り組んでいる方から，能美市は非常にコミュニティーが盛んで，懐の深さを実感しているという言葉をいただきました。あと，竹を粉砕したものを農業に活用できないかということでした。

連携についていろいろと意見が出ました。活動は盛んなのですが，いろいろな取り組みをされている主体の連携を推進するためのコーディネーターの確保が難しいということです。それから，連携という中には市民と行政の連携，地域間の連携，企業との連携があるが，今後はその主体間をつなぐための主体も必要になる，それにはやはり行政の役割が重要であるということです。私も行政の立場ですが，縦割りでなかなか横の連携がないのが実態ですので，今後は行政の中の横の連携も強化していく必要があると思っております。

辰口キャンパスの活用について，キャンパス内には非常に稀少な動植物がたくさん生息しているということで，活用する上ではむやみにそれを切り開くのではなく，まずそういった生態系の調査が必要であります。大学としては教育・研究がやはり必須ですので，それができるような取り組みが重要であるということです。

そして，雑木林の整備です。あそこは熊も近くに出没もしておりますので，地域の住民からいろいろ不安の声も聞かれているのですが，雑木林の整備はやはり大学の自己責任でやる必要がある，その整備には市民活動も必要なのですが，きちんとプロに委託をしてやらなければならないということがありました。

いずれにしても，公的な場所ですので，勝手に個人や特定の団体が好き勝手に使うのはやはりまずいということですから，大学と能美市がまず継続的に協議をしていこう，そういった中で包括的な協定の締結に発展していけばいいという意見が出ておりました。

分科会②報告　暮らしとまちづくり
（ゴミ，グリーンカーテン，特産品，地元ブランド）

村本　まずは「暮らしとまちづくり」ということで，資料にもあるグリーンカーテン，特産品，地元ブランドをキーワードに話し合いを進めていきました。最初に美化センターの増田さんの方から，カラスの被害があってどうしようもない，カラス対策に詳しい先生が金大にいないかという話になったのですが，カラスの嫌いな金属を開発した先生はいるが，カラスの生態に詳しい先生はいないということでした。

辰口キャンパスの利活用については，結局市民側も行政側もあまり現状が分かっていない，どういう使い方ができるのか全く分かっていない中でなかなか議論が深まらなかったので，もう少しお互いが情報を出し合う必要があると感じました。

次に，以前，金沢大学の教育学部の先生が学生の教育の一環として，フレンドシップ講座を開催していたが，予算が付かなくなったから切れたということも言われていたのですが，大学側からやり方次第では対応できるという話もありましたので，そういう点での連携はできそうかなという話が挙がっていました。

グリーンカーテンは実際に取り組みをやってどのようなCO_2削減といいますか，電気代の経費がどれだけ安くなったかという質問もあったのですが，そこまで考えてやってはいなかったのでデータはありませんという話でした。

後半は，参加者の日常の環境に関する取り組みをいろいろお話ししていただきました。やはり参加されている方は皆さん意識があるようで，皆さんにしっかりと話していただいたために全員の方が発言する機会を取れなくて，時間の配分ミスということで非常に反省しております。

発言の中であったのは，生ゴミの水切りをする，割りばし・紙コップを使わずにマイはし・マイコップに心掛けている，生ゴミをコンポストに入れるなどで，市民の方は大学との連携までいかなくても，やらなければならないことは分かっている，心のきっかけがどこかにあればそういうことにも取り組んでいけるのかなという感じです。

最後の方に学生の参加者からも一言あったのですが，学生はきっかけがないとなかなか環境その他でアクションすることがないので，直接学生の所に来て話してもらうと，やってみようと思う学生も出るのではないかというご意見でした。

東　特に補足ではないのですが，やはりエコ効果に対して漠然とこれはこうしてくれ，ああしてくれと言うのではなくて，そうするとどれだけ効果が出るのかという数値的に“見える化”をもっと進めて，情報公開をもっと密にすれば，意識のある人はより意識も高まるというところがやはり声として大きかったと思います。

それから一つ今話になかったのですが，金大用地の活用として，できたときと状況がかなり変わっていますので，それを踏まえて，今の時点での発想をいろいろと頭に巡らせた方が，活用の糸口が出てくるのではないかという意見もありました。